

動物にまつわる話題

野草なんかで、食べられるものと、似ているけど食べられないものがある。その場合、食べられないものには頭に動物の名前がつけられる。カラス、イヌ、ウシなど。それはウシが食べるもの、だから人間はダメだと分かる。ネコまんまは、食べてもよい。()

食べられるけど、取れる場所が違くと、「山」とか「里」を頭につけて区別する。山イモと里イモなどがそれ。里娘と山出し娘(何にも知らない生娘、礼儀作法も何も分かっていない若い娘、というような意味らしい)などとも言う。

里と山の間にある「野」は微妙である。里犬(飼い犬)と山犬は分かるとして、実は「野良犬」と「野犬(のいぬ)」という区分があるらしい。野良犬は保護の対象になるので、勝手に捕まえて殺すと動物愛護法に触れる。これは、野良ネコも同じ。野良犬が農作物や家畜に噛みついた瞬間、「良」がはずれて野犬となり、駆除の対象にされるという話を聞いたことがある。害獣駆除のイノシシやシカと同じ扱いになるということだろう。

「野良」と「野」の区別は主観的である。野良犬の大半はモグリだろうが、人の主観が入るので駆除されずに生きていける。人の区別は、野暮と野卑だろうか。野卑と言われたら、生きていくのはかなり辛い。ここにもやはり、人の主観が入るから恐ろしい。

ネコまんまのレシピは、白ごはん、味噌汁、カツブシ、カツブシ+醤油、カツブシ+味噌汁など、いろんな流儀がある。そのままネコに与えてもよいし、自分で食べてもよい。「サザエさん」でタマが食べたのは、型だったらしい。

「環境と文明の世界史」(洋泉社)という本を読んだ。この中に、家畜に由来する病気のことを書いてあって、人間は、犬や牛とは50種類以上の病気を共有しているらしい。麻疹は犬のジステンパー、結核は牛、ハンセン病は水牛に由来する病気だそうだ。インフルエンザは、豚や鶏の体内で変身する。もう、わが家の鶏を撫で回すのは止めとこう。

南極点に到達して生還したアムンゼン隊と、帰路全滅したスコット隊の違いについても、面白いことを書いてあった。アムンゼンは犬ソリを使い、スコットは馬ソリだった。アムンゼンは、かつて北極を目指した経験から、イヌイットに教えられて極寒でのサバイバル法を習得していた。つまり、食料が無くなったらソリ犬を食べて生き延びる術を知っていた。スコットはイギリス人だから、馬を食べるのは悪という文化的背景を持っていた。・・・アムンゼンが犬を食べたかどうかは知らないが、イヌイットにつながる人間と犬の長い歴史を考えると、犬由来の病気が多いことも納得できる。ちなみに、スコット隊は、帰路途中で馬が全滅し、荷物を自分で運ぶ羽目になり、最後には人間が力尽きたようだ。

ベルギーでは馬肉を食べる習慣があり、欧州では日本人の鯨食と同じくらい不評らしい。熊本でも馬肉を食べる。しかし、年配の方に言わせると「昔は馬肉が安かったから皆食べた。今のように高級な馬肉は郷土食ではない」らしい。さらに、今や全国区になった「イキナリ団子」は偽物であると嘆いている。本物は、お客さんがいきなり(急に)来ても、いきなり作って出せるからイキナリ団子である。お土産として作りおきしておくなど、もってのほかで、それにイキナリの名を冠してはいけないそうだ。本物は、fastを極めなければならない。